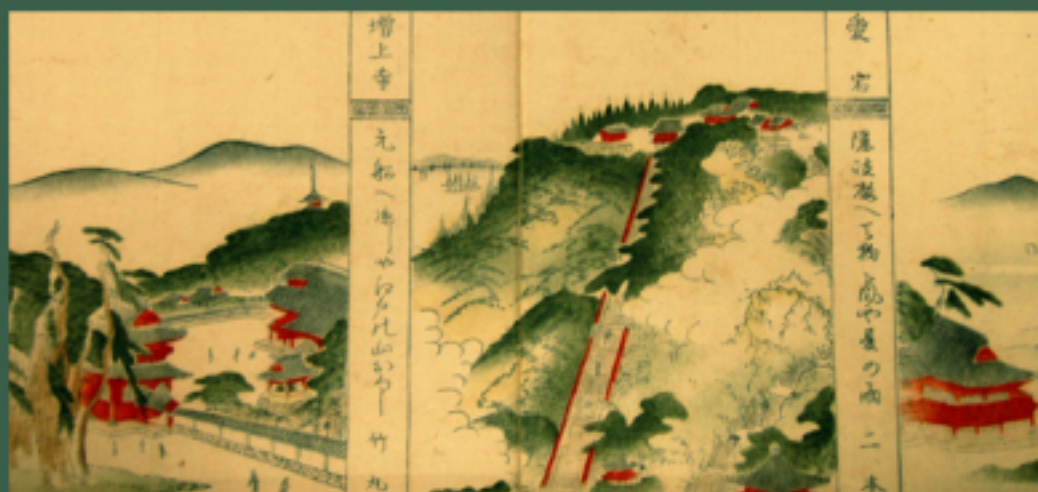


第39回明治大学中央図書館企画展示

# 新収貴重書展



会場: 明治大学中央図書館1Fギャラリー  
会期: 2011年4月22日(金)~5月25日(水)

## 「新収貴重書展」開催にあたって

明治大学図書館では、「明治大学図書館収書基本方針」に基づき、教育・研究に必要な資料を購入しています。そのなかには貴重書や大型コレクションなどの特別な資料も含まれ、また長年にわたって収集し、既に特色あるコレクションを形成している分野には重点的に予算を配分し、さらなるコレクションの発展・充実に努めています。古地図の一大コレクションである「蘆田文庫」、近代日本文学の初版本を集めた「日本近代文学文庫」、近世文学の洒落本、読本、草双紙類を集めた「江戸文藝文庫」などをあげることができます。これらの資料はふだんなかなか皆さんの眼に触れることがありませんが、「新収貴重書展」として、中央図書館ギャラリーで定期的に公開しています。

今回は2009年度に購入した資料を中心として展示します。スペースの関係で全ての資料を展示することはできませんが、貴重な資料としては、16世紀に世界で初めて、索引のある本格的な書誌を編纂・刊行し、書誌学の父と称えられているコンラート・ゲスナーの『万有文庫』、北尾恵斎政美画による『江都名所圖會：通計五十景』、山東京伝・式亭三馬など、江戸の戯作者6人の伝記と肖像の描かれた、岩本活東子<sup>いわもとかつとうし</sup>『戯作六家撰』など。また近代文学の初版本として、限定版『堀辰雄詩集』、版画家長谷川潔が装丁を担当した堀口大學歌集『パンの笛』などを展示しています。ギャラリー奥の展示ケースには、図書館の所蔵する様々な「ちりめん本」を展示しました。これらの資料のほとんどが貴重書庫に収められ、利用が制限されていますので、この機会にゆっくりとご覧ください。

明治大学図書館

新収貴重書展 出展リスト(2009年度収蔵の貴重書)

通番		書名など	請求記号
1	江戸文藝文庫	オオサカズネ テンノウホシカブト 大盃四天王星兜 富川房信作 刊年不明	913.57/72//H
2		ライコウタイヘイイダシズエ 頼光太平礎 蘭徳齋作 寛政3年(1791)刊?	913.57/71//H
3		清盛一代記 恋川春町(二世)作 南喬齋画 刊年不明	913.57/KO1-1//H
4		伊達模様紅葉打懸 橋本徳瓶作 勝川春扇画 文化12年(1815)刊	913.57/HA2-2//H
5		ツキネキオオウチカガミ 月都大内鏡 曲亭馬琴作 彩霞楼國丸画 文化13年(1816)刊	913.56/TA1-31//H
6		ゲキク ロックセン 戯作六家撰 岩本活東子著 四方梅彦写 明治13年(1880)写	913.5/141//H
7	抱谷文庫	フジユキ カイケイソガ 富士雪會稽曾我 刊年不明	768.58/10//H
8		ジュウニヒトエ コマチザクラ 重重人重小町桜 刊年不明	774.4/62//H
9		ニギワイゲンジ ハナサクガド 花麗源氏花咲門 増山金八, 木村園夫, 玉巻久次 [著] 刊年不明	774.4/65//H
10		セイチュウギシ ゲンロクカブキ ガイジン モモヤマヤク ヤヨイドウチュウヒナアイドリ 誠忠義士元禄歌舞伎; 凱陣桃山譯; 弥生道中雛相宿 [玉置清七] [18--]	774.4/101//H
11	洋貴重書	万有文庫 Bibliotheca uniersalis コンラート・ゲスナー 1545年	091.3/970//H
	参考展示	万有文庫 簡略版 Epitome Bibliothecæ Conradi Gesneri コンラート・ゲスナー 1555年	091.3/970//H
12	洋貴重書	ボドリ文書 [Codex Bodley] ファクシミリ版	099.3/520//H
13	洋貴重書	不思議の国のアリス Alice's adventures under ground ルイス・キャロル ファクシミリ版	099.3/519//H
14	ちりめん本	日本昔噺シリーズ スペイン語版 Cuentos del Jap ó n viejo 明治18(1885)-大正3(1914)年	099.1/245-*///H
15		日本昔噺シリーズ スペイン語版 Leyendas y narraciones japonesas 大正3(1914)年	099.1/246-*///H
		参考展示 日本昔噺シリーズ 英語版 Japanese fairy tale series 明治18(1885)-大正6(1917)年	099.1/230-*///H
		参考展示 日本昔噺シリーズ 仏語版 Les contes du vieux Japon 明治18(1885)-明治30(1897)年	099.1/237-*///H
		参考展示 孝女白菊の詩 Japanische Dichtungen : Weissaster, ein romantisches Epos, nebst anderen Gedichten カール・フロレンツ 明治43(1910)年	099.1/232//H
		参考展示 英文和歌集 Poetical greetings from the Far East カール・フロレンツ 明治29(1896)年	099.1/233//H
		参考展示 寺子屋 (菅原伝授手習鑑), 生写朝顔話 第2版 Japanische Dramen : Terakoya und Asagao カール・フロレンツ 明治33(1900)年	099.1/234//H
		参考展示 寺子屋 Sc è nes du th ê à tre japonais : 寺子屋, l' é cole de village (Terakoya) : drame historique en un acte カール・フロレンツ 明治33(1900)年	912/54//D
16	近代文学文庫	圓窓より 平塚らいてう 大正2(1913)年	MB100/HI20-1//W
17	近代文学文庫	パンの笛 : 歌集 堀口大學 大正8(1919)年	MB100/HO5-25//W
	参考展示	月光とピエロ : 詩集 堀口大學 昭和58(1983)年	911/1822-4-16//W
18	近代文学文庫	堀辰雄詩集 堀辰雄 昭和15(1940)年 A版(限定30部)	MB100/HO1-18//W
	参考展示	堀辰雄詩集 堀辰雄 昭和15(1940)年 B版(限定150部)	MB100/HO1-13//W
	参考展示	堀辰雄詩集 堀辰雄 昭和56(1981)年 復刻版[番外贈呈本]	911/1822-3-24//W
19	近代文学文庫	蓬萊曲 北村透谷 明治24(1891)年 初版	MB100/KI33-1//W
20	近代文学文庫	伊豆の踊子 川端康成 昭和7(1932)年 四六倍判櫛型(限定180部)	MB100/KA25-10//W
21	蘆田文庫	江都名所圖會 : 通計五十景 夢佛庵主人撰; 北尾恵斎政美画 天明5(1785)年	AS36/302//H
22	蘆田文庫	蝦夷國圖説	AS10/63//H
23	蘆田文庫	環海航路日記 / 廣瀬保庵著; 廣瀬一孝, 廣瀬愛親[共]校	AS110/48//H
	参考展示	環海航路新圖 / 廣瀬保庵[著] 文久2(1862)年	AS04/64//H

## 【江戸文藝文庫】

1999年、本学文学部教授、故・水野稔氏旧蔵書の一括購入を契機に創設された。江戸後期の読本・合巻・人情本・洒落本・黄表紙・滑稽本などからなり、山東京伝の『優曇華物語』初版本（文化元年）などがよく知られている。以後この旧蔵書を核として、近世後期の小説類とその関連資料を収集範囲と定め、図書館で毎年予算を計上し、コレクションの拡充を図っている。

拡充の一つの柱が元埼玉大学教授、故・大久保忠国氏旧蔵「抱谷文庫」の購入である。江戸時代の文藝および演劇関係の原本を多数蒐集していることで著名である。本学図書館では、役者評判記・番付・せりふ本などの演劇関係の資料、式亭三馬・山東京伝・山東京山・曲亭馬琴などの諸作その他を一括した草双紙類、狂言絵本類などジャンル毎にまとめて購入を続けている。

- 1 おおさかざき してんのうほしかぶと **大盃四天王星兜 3冊 富川房信(生没未詳)作 刊年不明** 913.57/72//H  
黒本。富川房信は通称山本九左衛門。吟雪・百亀と号した。江戸大伝馬町で地本間屋丸屋を営んでいたが、安永年間に廃業したと伝えられる。西村重長に絵を学んだと言われ、宝暦期(1751～64)の細判紅摺絵などが残されているが、その仕事の主たるものは、宝暦・明和・安永(1751～1780)にかけて書かれた200余種に及ぶ黒本・青本である。鳥居清満(1735～1785)と並んで、黄表紙以前の草双紙における最も代表的な作者である。房信の作品についての研究は進んでいるが、本書はこれまで知られていなかった作であり、研究に資する意義も大きい。
- 2 らいこうたいへいのいしげえ **頼光太平礎 5巻 蘭徳齋(生没未詳)作 寛政3年(1791)刊か?** 913.57/71//H  
黄表紙。本書は『国書総目録』に所蔵者の記事がない。本書の刊年考証を行っている棚橋正博『黄表紙総覧』も原本は未確認としており、現在のところ、この明大本が天下1本ということになる。その意味で貴重な資料である。蘭徳齋こと勝川春道は、姓は林、名は春道・祥周。蘭徳齋・春童を号した。勝川春章の門人としては最古参で、当初は春章の師である宮川春水の門人だったと言われている。安永から寛政(1772～1801)にかけて活動し、春章風の細判役者絵などのほか、黄表紙を中心に50作ほどが知られているが、絵師としてはほとんど無名のまま終わった絵師である。
- 3 きよもりいちだい **清盛一代記 3冊 恋川春町(二世 生没未詳)作/南喬齋(経歴未詳)画 刊年不明** 913.57/K01-1//H  
黄表紙。本書は、『国書総目録』に『源平武者梅魁』として登録されており、「清盛一代記」はその角書となっている。但し、『源平武者梅魁』も東京都立図書館「加賀文庫」蔵の1本が知られるのみで、本書との関係については今後の詳しい調査が必要である。作者の二世恋川春町(恋川行町)は、経歴が胡散な作者である。恋川春町の二世を襲い、また、喜多川歌麿の二世をも称して、戯作・浮世絵の両者に渡って偉大な初代の名を継いでいるが、当人はさしたる仕事は残していない。歌麿晩年の画風を模した浮世絵を残したほか、黄表紙・合巻など40数作をものしている。南喬齋は未詳だが、『源平武者梅魁』の画工が喜多川月麿とされているところからすれば、月麿の別号かとも思われる。喜多川月麿(生年不明～1830)は喜多川歌麿の門人で、姓は小川、名は潤、字は子達・士達。通称は、千助、また六三郎とも。菊麿・喜久麿と

号し、文化元年(1804)から月曆を名乗った。別号に、墨亭・観雪・酒斎などがある。美人画・花鳥画の錦絵を描き、享和以後は肉筆画を多く描いたとされる。黄表紙・合巻は70数作に筆を執っている。

4 <sup>だてもようもみぢのうちかけ</sup>伊達模様紅葉打懸 6冊 橋本徳瓶(1758~1825)作/勝川春扇(生没未詳)画  
文化12年(1815)刊 913.57/HA2-2//H

合巻。角書は「三浦高尾お房徳兵衛」。橋本徳瓶は、通称の徳平・徳兵衛を戯号としたもので、別号に千代春道・浮世喜楽を称した。版下書きを本業とするかたわら戯作を手がけ、合巻を中心に30作ほどが知られている。

画工の勝川春扇は、姓は不詳、俗称は清次郎。可笑斎・登竜斎と号した。初めは三代堤等琳に学んだが、後に勝川春英の門下となって春扇と号し、文政初年頃から二代勝川春好を名のった。晩年は芝神明町に住み、陶器の絵付けを業としたと言われる。美人画・役者絵・風景画などを描いたほか、100作以上の合巻の画工を務めている。本書は文化年間の作ながら残存数が少なく、所在が知られているのは4件ほどに過ぎない。

5 <sup>つきのみやこおおうちかがみ</sup>月都大内鏡 2冊 曲亭馬琴(1767~1848)作/彩霞楼国丸(1793~1829)画  
文化13年(1816)刊 913.56/TA1-31//H

合巻。角書は「巖島神徳大江勲功」。作者の曲亭馬琴について贅言の要はないだろう。江戸後期戯作を代表する作者であり、「江戸文藝文庫」の蒐書の柱となる一人である。今後も、その作品蒐集の充実を図っていかねばならない。

画工の彩霞楼国丸は、歌川国丸の別号である。国丸は初代歌川豊国の門人で、国安・国直と並んで門下の三羽鳥と称された。文化・文政期に合巻の挿絵を数多く制作している。馬琴の合巻としては本書は数が少ないもので、所蔵館は10件に満たない。

6 <sup>げさくろっかせん</sup>戯作六家撰 写本1冊 岩本活東子(1841~1916)著/四方梅彦(1822~1896)写  
明治13年(1880)写 913.5/141//H

『戯作六家撰』は岩本活東子編の叢書『燕石十種』中の1冊で、京伝・馬琴・三馬など戯作者六名と北斎など画工三名の小伝である。『燕石十種』そのものは夙に活字翻刻されており、本としてはよく知られているが、これはその原本の再転写本である。活東子の原本を転写したのは谷文晁門の絵師野村文紹(1816~1891頃?)で、さらにそれを幕末期戯作者四方梅彦が再転写したものが、この明大本である。梅彦は手先が器用な質で、原本の彩色の肖像画も丁寧に写している。本書の旧蔵者は、蔵書印から日本画家の川崎千虎だったことが知られ、その伝来も素性がよい。

なお、書誌の詳細は、内村和至「写本『戯作六家撰』について」(『図書の譜』第15号 明治大学図書館 2011・3)を参照されたい。



## 【抱谷文庫】

本学図書館所蔵の江戸文藝文庫には、抱谷文庫旧蔵の文献資料が多数所蔵されている。この抱谷文庫とは、歌舞伎・人形浄瑠璃を中心とする近世文学の研究者として知られた元さいたま大学教授、故大久保忠国氏が自身の蔵書に対して命名したもので、同氏の専門領域である江戸期の芝居や音曲関係の写本・板本を初めとし、小説・風俗書・節用集等々、広く当期の原本類を蒐集しているコレクションとして、早く同氏生前の頃から研究者たちの関心を集めていたものだった。

ちなみに、同文庫に関しては、所蔵者逝去の後に国文学研究資料館の手で悉皆調査が行われ、その後、市場に出されるという経緯を経て、その一部を本学図書館が購入するに至ったという次第なのである。

現在、本学図書館が所蔵する同文庫旧蔵所の内容は、薄物正本・役者評判記・芝居番付・草双紙その他多岐にわたるものがある。

(図書の譜 11号 P322- 原道生著より抜粋)

- 7 富士雪會稽會我 刊年不明 768. 58/10//H  
8 重々人重小町桜 刊年不明 774. 4/62//H  
9 花麗源氏花咲門 増山金八, 木村園夫, 玉巻久次[著] 刊年不明 774. 4/65//H  
10 誠忠義士元祿歌舞伎 ; 凱陣桃山譯 ; 弥生道中雛相宿 [玉置清七] [18-] 774. 4/101//H

## 【洋貴重書】

- 11 コンラート・ゲスナー 『万有文庫』 チューリッヒ 1545年 091. 3/970//H  
Gesner, Konrad (1516-1565)  
*Bibliotheca Universalis, sive Catalogus omnium scriptorium...*  
Tuguri (Zurich) : Christophorum Froschouerum, 1545

コンラート・ゲスナーは、スイス人の博物学者、ギリシャ語教師。博物学の著作としては、『動物誌』(*Historia Animalium*) が有名だが、書誌学上においても、近世の書誌編纂法の基礎を築いた人物として知られている。

ゲスナーは、彼の時代までに蓄積された人類の知識である書物を体系化しようと試み、聖書の言葉であるギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語で書かれたあらゆる分野の書誌情報を網羅的に収集・整理し、『万有文庫』(*Bibliotheca Universalis*)として1545年にチューリッヒのフローシャウアー印刷所より刊行した。書誌の構成は、書誌本体が著者のファースト・ネーム順の配列で、約3000名、12000点の書物が収録されており、巻頭に著者名のアルファベット順索引がつけられている。



3年後の1548年には、『万有文庫』に収録された書物を21の学問の主題区分によって編成した近代的分類目録の嚆矢ともいえる『総覧』(*Pandectarum sive Partitonum universalis...libri XXI*)を刊行(第20類「医学」は未完、第21類「神学」の分類は1549年に刊行)。また、ゲスナーは著書に多数の参照文献リスト掲載したが、これは参考文献一覧の始まりともいえる。

【参考展示】

コンラート・ゲスナー 『簡略版万有文庫』 1555年

091.3/970//H

Gesner, Konrad (1516-1565) *Epitome Bibliothecæ Conradi Gesneri*  
Tuguri (Zurich) : Christophorum Froschouerum, 1555

ゲスナーは1555年に、『萬有文庫』の補遺版として *Appendixi bibliothecæ* を刊行し、同年に補遺版をもあわせた『萬有文庫』の抄録である本書『簡略版萬有文庫』を刊行した。簡略版では、初版に記された人物伝や著作の注記にあたる部分が削除されている。

12 『ボドリ絵文書』 写本 1509年 【ファクシミリ版】

099.3/520//H

オックスフォード大学ボードリアン図書館蔵

[*Codex Bodley*]

Screenfold pictorial manuscript (25 x 800cm)

Facsim. reprint of: Codex in the Bodleian Library Ms.

Mex. d1(Arch. Bodley A.75)(2858)

ボドリ絵文書 (*Codex Bodley*) は、現存する最も重要な古代メキシコの歴史文書のひとつといわれている。スペインによるメキシコ征服(1521年)前の1509年に、メソアメリカのミシュテカ地域において制作された。

この写本の名称は、1603年以来オックスフォード大学のボードリアンライブラリーに所蔵されていることに由来している。本写本は2009年のファクシミリ版。



13 ルイス・キャロル『地底の国のアリスの冒険』 自筆原稿 1864年 【ファクシミリ版】

099.3/519//H

Carroll, Lewis *Alice's Adventures under ground*

London : Folio Society, 2008

Facsim. reprint of: British Library Add. Ms. 46700

本書は『不思議の国のアリス』(*Alice's adventures in wonderland*)の原型となったルイス・キャロルの自筆原稿。1864年、ルイス・キャロルが、師の娘、10歳のアリス・リデルにクリスマス・プレゼントとして贈ったもので、貴重なオリジナルのマニュスクリプトは大英図書館に所蔵されている。本書はそのファクシミリ版。



## 【ちりめん本】

ちりめん本とは、柔らかい和紙を使用した木版多色刷の挿絵入りの本を、縮緬加工して布のようなやわらかな風合いに仕立てた小型和綴じ本のことで、明治10年代に初めて長谷川弘文社から出版された。これをはじめて手がけたのは長谷川武次郎という人物で、彼の英語と海外の文化への興味から、さまざまな来日外国人と交流する中で、英文による「昔噺集」が生まれた。ちりめん本は土産品としても外国人に大いにもてはやされ、英語版のほかに、独・仏・蘭・西語版も出版された。また、海外の出版社との共同出版も行われた。『日本昔噺シリーズ』(Japanese fairy tale series) が最も普及し版を重ねたが、この日本昔噺シリーズのほかに、単発で日本の風俗・文化の紹介や暦なども出版されている。

14 日本昔噺シリーズ スペイン語版 *Cuentos del Jap ó n viejo*  
明治18(1885)-大正3年(1914) 099.1/245-\*/H

15 日本昔噺シリーズ スペイン語版 *Leyendas y narraciones japonesas*  
大正3年(1914) 099.1/246-\*/H

スペイン語版は20冊揃っていて、10冊ずつ箱入りにして出版されている。スペイン語版も他の言語の版と同じ絵を使っている。他の言語のものは弘文社刊であるのに、スペイン語版は全て、発行者が長谷川武次郎である。本学所蔵のものは、全てエスパダ(Gonzalo J. de la Espada)による訳である。1907年に来日したサラマンカ生まれのスペイン人で、東京外国語学校でスペイン語の教師をしていた。武次郎が、一橋大学の前身であるウィリアム・ホイットニーの商法講習所で学んでいた関係で接触があったと思われる。



### 【参考展示】

日本昔噺シリーズ 英語版(*Japanese fairy tale series*)  
明治18(1885)-25年(1892) 弘文社 099.1/230-\*/H

日本昔噺シリーズ フランス語版(*Les contes du vieux Japon*)  
明治18(1885)-明治30年(1897) 長谷川武次郎 099.1/237-\*/H

孝女白菊の詩

*Japanische Dichtungen : Weissaster, ein romantisches Epos, nebst anderen Gedichten*  
カール・フロレンツ 明治43年(1910) 099.1/232//H

英文和歌集 *Poetical greetings from the Far East* カール・フロレンツ  
明治29年(1896) 099.1/233//H

寺子屋 (菅原伝授手習鑑), 生写朝顔話 第2版

*Japanische Dramen : Terakoya und Asagao* カール・フロレンツ  
明治33年(1900) 099.1/234//H

寺子屋 *Sc è nes du th é â tre japonais : 寺子屋, l' é cole de village (Terakoya) :*  
*drame historique en un acte* カール・フロレンツ

明治33年(1900) (平紙本) 912/54//D



## 【日本近代文学文庫】

小林秀穂元予科長の寄贈書（文学、哲学書 100 冊）をもとに、昭和 22 年(1947)に「小林文庫」として設置。日本文学の授業で薫り高い文学書初版本を学生に触れさせたいとの考えからであったと伝えられる。1991 年に故佐藤正彰元図書館長・文学部教授の旧蔵書を受け入れるにあたって現名に改称した。コレクションは明治から昭和戦前期までの文学書の初版本を中心とし、最近では文学史上重要な作家の戦後の作品を加えている。また、本学関係者の作品およびその人となり伝える自筆もの（署名本、草稿、書幅等）もコレクションとしている。

- 1 6 平塚らいてう (1886-1971) 『圓窓より』 大正 2 年(1913) 5 月 1 日 東雲堂書店  
四六判 325 頁 九拾錢 天金 厚紙耳折れ表紙上製本 貼函入 装幀：尾竹一枝  
MB100/HI20-1//W

『青鞥』創刊号に掲げた「元始女性は太陽であった」「女としての樋口一葉」などを収録した著者の第一評論集。刊行直後の同年 5 月 22 日に家族制度破壊と風俗壊乱を理由に発禁処分を受けた。発禁対象となった結婚制度を否定した「世の婦人達に」と  
「わがまなこ」の 2 篇を削除して、同年 6 月 10 日に『肩ある窓にて』と改題して発行された。肩とはかんぬきを意味している。らいてうは、開放された窓ではなく、閉ざされた暗雲の気持ちを改訂の書名に込めていた。

- 1 7 堀口大學 (1892-1981) 『パンの笛：歌集』 大正 8 年(1919) 自費出版  
初山書店(発売) 四六判 167 頁 1 圓 50 錢 グラシンカバー付 天金 地アン  
カット フランス装 装幀：長谷川潔 表紙画・木版彫刻：菊池武嗣  
序：与謝野寛 MB100/H05-25//W

堀口大學の処女歌集。本書と同時に詩集『月光とピエロ』を出版した。大學は出版当時外遊中であったが、造本から献本までを当時兄とも慕っていた日夏耿之助が引き受けた。『パンの笛』、『月光とピエロ』はいずれも装幀を長谷川潔が担当した。カバー代わりに書名を印刷したグラシンカバーが掛けられていて、木版画のカットが透けて見える。本書は薄いグラシンカバー付の極めて稀な完本。『パンの笛』の図案は表に牧神の顔、裏表紙に豎笛が描かれ、軟らかなフランス表紙に相応しい優美な印象を与えている。



【参考展示】『月光とピエロ：詩集』

- 1 8 堀辰雄 (1904-1953) 『堀辰雄詩集』A 版 昭和 15 年(1940) 山本書店  
半紙判 未綴本 6 枚 A 版 15 円 (B 版 3 円) 帙・外カバー付  
表紙フランス製カンソン色木炭紙重ね折  
本文フランス製タイクン木炭紙二色刷  
深澤紅子手彩色デッサン 1 葉、および肉筆水彩画 1 葉・肉筆ならびに手彩カット挿入  
立原道造宛の著者献辞別葉添付  
限定 180 部、内 A 版 30 部、B 版 150 部。架蔵本は A 版第 18 号 MB100/H01-18//W

堀辰雄の弟子を自任していた立原道造は、堀辰雄が即興的に作った 3 つの詩を選び、それを筆写して小冊子を仕立てた。立原はその小さな自家製の詩集を、懇意にしてい

た画家深澤紅子の許に残して早逝した。立原の死後、堀辰雄はこの詩集をもとに深澤紅子の挿画を入れて限定版の詩集を作った。別葉にはこの詩集と亡き立原への思いが、その悲しみとともに綴られている。

『堀辰雄詩集』は限定 180 部で、うち A 版 30 部、B 版 150 部。A 版と B 版の違いは主に深澤紅子によるカットや水彩画である。深澤紅子の自筆による A 版の美しさは格別であり、一冊ずつ異なる水彩画一葉が入っている。本書は A 版で、3 頁目には著者のペン書きで「私の骨の小さな森の中で／私の青い静脈の中で／花よ 小鳥よ 魚よ／仲好く暮らしてゐておくれ」とある。

なお、日本近代文学館の復刻版は、番外贈呈本の川端康成本を底本としている。

【参考展示】『堀辰雄詩集』B 版[限定 150 部] MB100/HO1-13//W  
『堀辰雄詩集』復刻版[番外贈呈本] 911/1822-3-24//W

**19 北村透谷 (1868-1894) 『蓬莱曲』明治 24 年(1891) 5 月 養眞堂刊 初版**  
仮綴装(外装無完) 拾六銭 MB100/KI33-1//W

日本近代文学においては異例ともいえる幻想的な劇詩。執筆にあたりバイロンの「マンフレッド」とシェイクスピアの「ハムレット」から影響を受けていることは、数多くの指摘がなされている。発行元は透谷自身の家であり、自費出版として世に出された。当時は売れ行きが芳しくなく、翌年には半額で特売という広告が出たことは広く知られている。『蓬莱曲』の発表以後、透谷は活動を文芸評論に移し、劇詩から離れた。

**20 川端康成 (1899-1972) 『伊豆の踊子』昭和 7 年(1932) 6 月 江川書房**  
限定 180 部 四六倍判樹型(菊大判) 奉書紙小穴隆一木版十二度刷 手彩色絵装  
三圓八十銭 MB100/KA25-10//W

『伊豆の踊子』単行本としては、本書は 5 冊目にあたる。画家小穴隆一による美しい装丁は高い評価を受けている。十二度刷の木版画に施されている手彩色には労力を要したようで添えられた葉書にその苦労話が記されていたが、残念ながら当館所蔵本には葉書は付いていない。表紙には手彩色による踊子が鮮やかに描かれており、庄司淺水は“世界に誇るべき和紙をもっとも効果的に利用した本だ”と評した。末尾に小林秀雄の跋がある。

## 【蘆田文庫】

歴史地理学者として高名な蘆田伊人<sup>あしだこれと</sup>が生涯をかけて収集した約2,000点の古地図のコレクションを1957年に購入。内容は、世界図、北方図、日本図、地方図、町図、街道図、水路図、俯瞰図、など幅広い分野に渡っている。日本図では、江戸初期の行基図や国絵図、元禄期の石川流宣『本朝図鑑綱目』、江戸中期に民間図の主流をなした安永8年(1779)版の長久保赤水『日本輿地路程全図』、伊能図、明治期の地形図などが系統的に集められており、日本地図成立史を知る上でも有用なコレクションと言える。また、地方図には、当該地域において既に失われてしまった貴重なものが含まれている。世界図では、大黒屋光太夫将来の両半球図写図や、リッチ系の楕円形図などが所蔵されている。

### 2 1 江都名所圖會：通計五十景 夢佛庵主人撰；北尾恵斎政美画 天明5年(1785)

木版(色刷) 1軸 17.4×1236.7cm AS36/302//H

上野、両国橋、羅漢寺、亀戸、平井から最後の飛鳥山、蓬萊寺まで江戸の名所図を標題にあるように50並べ、名所の地名ごとに俳諧を付す。北尾政美は鋏形恵斎とも称する浮世絵師。蘆田文庫には、鋏形恵斎作の日本俯瞰図が2点(AS09/179//H、AS09/197//H)が所蔵されている。

### 2 2 蝦夷國圖説 手書図 1舗 83.4×117.4cm (20.9×15.2cm) AS10/63//H

古川古松軒(1726～1807)は備前国出身の地理学者。九州の旅行記である「西遊雜記」、奥州・蝦夷への幕府巡見使に随行(天明8年)した紀行「東遊雜記」が代表的著作、その他多くの地誌、地図を作成した。また古松軒は、林子平の「三国通覧図説」を激しく批判したことでも有名である。本図は幕府巡見使に随行して蝦夷地にあったおり、松前藩所蔵の図絵図を写したものである。本図の原図は函館市有形文化財として函館市中央図書館に所蔵される。図面には蝦夷地に関する地誌が多く記述されている。

### 2 3 環海航路日記 / 廣瀬保庵著；廣瀬一孝，廣瀬愛親[共]校

[万延元年(1860)以降刊] 2冊 25.6×17.8cm AS110/48//H

著者廣瀬保庵は甲斐国市川大門の医師、勘定組頭森田岡太郎の用人として万延元年の幕府遣米使節団に随行した。本書は帰国後に刊行したこの時の記録。また廣瀬保庵は、『環海航路新圖』(参考パネル展示)と題する世界地図を刊行している。この地図には遣米使節団のたどった経路が日付とともに記録されている。本書は上下巻二冊からなるが、三巻からなる日記の刊行予定が『新圖』の識語に記され、また本書の巻末にも「環海航路日記前編」とあり、内容もパナマで終わっていることから、日記に続編が計画されていたことがうかがえる。

【参考展示】環海航路新圖 / 廣瀬保庵 [著] 文久2年(1862)

木版(色刷) 1舗 96.5×167.8cm(26.9×18.5cm) AS04/64//H



**第39回 明治大学中央図書館企画展示  
新収貴重書展**

編集：中央図書館ギャラリー企画運営 WG

解題執筆協力：目録 No.1-6,江戸文藝文庫 内村和至(文学部教授)

発行：明治大学図書館

発行日：2011年4月22日